

中国の一人っ子世代の親子・親族関係①

—浙江省紹興市の事例研究から—

○施 利平(明治大学)、陳 予茜(明治大学・院)

中国で1979年から2015年までの36年間一人っ子政策が続いてきた。一人っ子の人口は、2007年末に1.5億を超え(楊・王2007)、2010年に1.64億を超えている(辜2016)。これらの一人っ子は一つの世代を形成し、中国社会の人口構造もさることながら、家族・親族制度を始め、中国社会を大きく変容させると言われてきた。

これまで息子と同居し、息子によって老後扶養されることは、公的年金制度と医療保険制度が整備されていない農村部の大部分の高齢者と、社会保障制度を享受できない都市自営業者にとっては、老後の主な生活保障であった。しかし、一人っ子世代の出現は、4人の祖父母、2人の親と1人の孫により構成される「4・2・1家族」をもたらし、老親扶養責任の過重が予想される。これは、高齢者扶養を私的扶養に大きく頼る中国社会にとっては、社会の安定を根底から揺るがしかねない事態を招くことになる。同時に1.64億の約半数の家庭は娘しか持たない現実、息子と同居し、息子による継承・相続と祖先祭祀を原則とする父系的な親族規範、いわゆる父系のみでの家族・親族の再生産を不可能にしている。

一人っ子世代の誕生が、伝統的親親扶養モデルと父系親族規範に変質をもたらすかに関しては、これまで相反する知見が共に提示されてきた。一方では、一人っ子政策の実施により、娘しかいない世帯数が増加している。娘しかいないことは、財産相続や老親扶養・介護における娘の重要度の高まりを意味し、父系的な親族関係の変容をもたらすと指摘されてきた(小浜2015)。実際に夫側と妻側の親元に、それぞれ住まいを構え、決まった期間をどちらかの親元で生活し、双系的な親族関係を形成している事例もある(黄2014)。他方、富裕層にとっての資産継承者や貧困層にとっての老後扶養者として、息子が希求されるため、新生児性比のアンバランスが見られ、父系的な親族規範がむしろ強まっているという研究も見られる(田・王2008)。また、一人っ子世代の子どもをめぐって、父系親族規範に沿って父方の姓を継承するのか。それとも母方の姓を継承するのか。またはほかの形をとるのかについて、夫婦、双方の親の間に対立が生じ、夫婦間不和や離婚が多く発生している。

結局、一人っ子世代の誕生が、中国伝統的な老親扶養モデルである「養児防老」、および息子との同居、息子による継承・相続と祖先祭祀を原則とする父系的な親族規範に変質をもたらすのか。この問いは、高齢者の生存の質や社会の安定に関わる現実的な問いであり、また人々の生き方や社会構造を理解する上で根本的な問いでもある。さらに、この問いは、少子化が進行し子ども数も減少する先進諸国においても、老親介護ネットワークや子育てネットワークの変容をはじめ、家族や親族関係が大きく変化しているゆえ、人口学的変動と家族・親族の変容を解明する上でも重要である。

しかしこの問いは、これまで十分に検証されてこなかった。本研究では、一人っ子世代の女性対象者を通して、女性の生家と婚家との関係を比較研究することにより、一人っ子世代が親子・親族関係に与えた影響を解明することが本研究の目的とする。本発表は、浙江省紹興市在住の一人っ子世代の女性対象者(既婚、子持ち)に対して行なったインタビュー調査の結果を一部紹介する予定である。

参考文献

田雪原・王国強編2008『中国の人的資源——豊かさと持続可能性への挑戦』法政大学出版社

小浜正子2015「現代中国の家族の変容-少子化と母系ネットワークの顕現」小浜正子編『ジェンダーの中国史』勉誠出版43-53

辜子寅2016「我国独生子女及失独家庭规模估计—基于第六次人口普查数据的分析」『常熟理工学院学报(哲学社会科学)』1:83-89

黄亚慧2014「苏南地区的并家婚姻考察」『中国青年研究』11:24-28

肖富群・風笑天2010「我国独生子女研究30年」『中州学刊』4:104-109

楊書章・王広州2007「一种独生子女数量间接估计方法」『中国人口科学』4:58-96

キーワード：一人っ子世代、世代間関係、父系親族規範

謝辞：本研究はJSPS科研費JP19K02052の助成を受けたものである。